

第4回 香取市子ども・子育て会議
議事録要旨

日時：平成26年9月30日（火）15時～
場所：香取市役所7階 全員協議会室

1.開会

2.会長あいさつ

3.協議事項

(1) 計画に対するパブリックコメントの実施について

《事務局からの資料説明》

《質疑応答》なし

(2) 今後のスケジュールについて

《事務局からの資料説明》

《質疑応答》

会 長 公立園の認定こども園の計画について、子育て支援事業を行う必要がある。子育て支援センターを実施することが望ましいのではないかと。子育ての拠点整備という意味で、センターの数が増えるのは良いことではないかと。

事務局 平成29年度に1か所、平成31年度に1か所、計2か所の整備を予定している。

委 員 私立幼稚園においても認定こども園への移行について検討しており、また、新制度に関する周知を市民にしていく必要があるのではないかと話し合いをしている。

事務局 市としては、平成25年度に幼保一元化について区長等への説明を行っており、本年10月にも区長への説明を予定しており、そのほか、必要に応じて説明を行っていききたい。

会 長 公立と私立の幼稚園の保育料が異なるという問題がある。また、保育標準時間と保育短時間で保育料が異なることなど、保護者への理解を促す取り組みを行ってほしい。

事務局 現段階では、保育料の具体的な内容を示すことはできないが、今後、申請手続きの段階などで、保護者等の理解を促す取り組みを行っていききたい。

4.その他

《質疑応答》

会 長 新制度で認定の基準が変わる。育児休業をとったときに、年長児以外は保育の継続利用ができなかったが、今後はどうなるのか。

事務局 今後は継続利用が可能となる。

会 長 最後に意見を述べさせていただく。認定こども園については、政権交代を経ながら、制度の内容が変化してきた。また、保育園についてはすべての園が新制度に

移行するが、幼稚園は当初は一部の園の移行が予定されている。ニーズ調査によれば、就学前児童全体の23%が家庭での保育となっており、国等からの財政的な支援を受けていない層である。0歳88%、1歳56%、2歳37%、3歳25%が家庭で保育を行っている。この子どもたちは新制度の恩恵を受けられない状況である。そのほか、最近、言葉のおくれや多動性の特徴をもつ子どもが増えているように感じる。人間の発達には「認知」「情緒」「身体」の発達があり、おおむね3歳までに発達の重要な基礎ができると言われている。なお、母親に育児の負担が集中しており、ちょっとしたきっかけで虐待に追い込まれてしまうのではないかと懸念されている。虐待の相談件数は急速に増えており、千葉県は全国で3番目に多い。投資効果を調べた調査によると、小さいときにしっかりと支援をすると、多くの指標で将来的な社会負担が少なくすむことが分かっている。日本の政治は子どもにお金をかけているのかどうか。GDPに占める教育支出の割合はOECD平均を大きく下回る。子どもに投資することは大変重要である。今回の新制度の目的は3つあり、特に質的改善が進んでいないのではないかと懸念されている。一人の保育士がみる子どもの数が多く、職員の給与のアップも必要である。そのほか、一時預かりや放課後児童クラブの充実などを図っていく必要がある。これからは計画に基づいて、より良い政策に取り組んでいくことになる。計画の推進には、市役所の職員だけでなく、さまざまな方が関わっていくことが重要である。

5.閉会

以上